



【ご挨拶】 1月相談会で、前週のメッセージのまとめがあったら助かる、というご意見を頂いたことと、私の中でもしばらく前から主がマナの再開を促してくださっていたこともあり、再開することに決めました。尚、2008年の第一号から2011年の119号まではウェブページの「Manna」ボタンをクリックしていただくとご覧いただけます。

マナは基本的に週報の付録という位置づけです。前週のメッセージの主要ポイント、今週の暗唱聖句の解説、クリスチャン生活のヒント、有名なクリスチャンの言葉、耳寄りニュース等を掲載したいと思います。尚、以前の内容のリサイクルもする可能性もあるのでご容赦ください。この紙面が皆様の霊的成長と励ましに少しでも役に立つよう祈りつつ執筆して参ります。

【今週の暗唱聖句】 第一ペテロ 2 : 5

「あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。」

グリニッチ界限では家と家との境界線が石の壁で仕切られていることが多い。その工事をする人をMASON「石工」と言うが、彼らは壁の材料となる様々な石を眺め、石を切ったり削ったりしつつ、一つずつ、見事に積み上げて行く。我々が「生ける石」としてこの「霊の家」に築き上げられていくためにも、神の手により切られ、削られ、隣の石としっかり組み合わせられて行かなければならない。そのプロセスは決して心地よいものではない、クリスチャン一人一人が、自ら生ける石であられるイエス・キリストを土台とし、その愛に留まり、命令に従う時にこの御言葉は実現するのである。「霊のいけにえ」

とは何か？それは何よりも「自分自身」であり、私たちの主に対する奉仕…神への礼拝、地で行う善行、証しと伝道などである。



【先週のメッセージより】

クリスチャンにはいろいろな立場が与えられている。①イエス様を信じて最初に与えられる立場は「神の子」であり、無条件の愛、必要の全ての備え、訓練と訓戒、励ましと叱責、相続権等、子供としての特権について聖書は多くを語っている。一生の間ますます素直に 父なる神に信頼する体質になって行きたい。②次に来るのは「主の弟子」である。弟子は師に従い、師に倣い、師から学ぶ存在である。実際には御霊の助けを頂きながら、御言葉を熱心に学び、意味を理解し、実践に移すことを繰り返し練習する存在である。イエスの似姿に変えられていくことが目標となる。③「僕」には具体的に果たすべき「仕事と責任」が与えられている。私たちは主の手足であり、それぞれ与えられたタラントをしっかりと用い、主のために実を結んでいくことで、主が戻られる時に、「よくやった」と言っていただけるのである。④「兵士」としての立場を認識すること無しに、クリスチャンも教会も真の敵である悪魔に勝利することは出来ない。日々、神の武具を身につけ、私たちの戦いが「血肉＝人」に対するものではなく、「霊的支配＝悪魔とその使いたち」に対するものであることを常に意識し、祈りと御言葉により、世の悪の力に敢然と立ち向かうことが求められている。⑤クリスチャンはイエス様が「大祭司」であるのと同様に、世にあっては「祭司」の務めが与えられている。神の赦しは既に提供されているが、その赦しを受入れようとしない人々には「神の怒り」が留まる、と書いてある。その「神の怒り」と「罪人」の間に入り、執り成しをするのが祭司の務めであり、具体的に友のための祈り、伝道、奉仕という形で現れる。⑥この地上で最後に来る立場は「主の友」である。子供が大人になると、親にとり子供は子供であり続けながら、友に格上げされる。主はそのような友を求めておられる。弟子として学び、僕として仕え、兵士として主と共に前線で戦い、祭司として主に熱心に訴えをしていく中で、主イエスとの心の絆が深められ、人は主の友として成長させられていくのである。★この新しい一年、それぞれの領域で成長させられたいものである。■

